

## 第 8 回 IODP 部会・執行部会 議事録

日時：2006 年 3 月 16 日（木）13：30～17：15

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 10 階 大会議室

出席者：執行部員

鈴木徳行（北海道大学大学院）阿波根直一（北海道大学大学院）巽好幸（JAMSTEC）

荒井晃作（産業技術総合研究所）佐柳敬造（東海大学）木戸ゆかり（JAMSTEC）

山本啓之（JAMSTEC）海野進（静岡大学）川幡穂高（東京大学海洋研究所）

MEXT：田中康久 大島俊之 向後毅

JAMSTEC/CDEX：伊藤久男

JAMSTEC：鷺尾幸久・笹山岳大

事務局：山川稔・長橋徹・小野愛実

欠席者：石橋純一郎（九州大学）佐藤時幸（秋田大学）白井正明（東京大学海洋研究所）

山田泰広（京都大学）

### 議事次第

- 1．第 7 回 IODP 部会・執行部会議事録 【資料 8-1】
- 2．国際 SAS パネルローテーション(阿波根部会長補佐，事務局) 【資料 8-2】
  - ・ SPPOC 後任委員
  - ・ SPC 後任委員
  - ・ SSEP，SSP 委員大量退任の対処について
- 3．IODP 成果報告会(海野部員，川幡氏，事務局)
- 4．J-DESC 総会(鈴木部会長，事務局) 【資料 8-3】
  - ・ 議事次第(案)
  - ・ 運営方法(議事進行)
- 5．新専門部会[科学推進専門部会；仮称](鈴木部会長，事務局) 【資料 8-4】
  - ・ 新専門部会委員選出(案)
- 6．J-DESC 予算執行状況(事務局) 【資料 8-5】
- 7．平成 18 年度活動方針と予算(案)(阿波根部会長補佐，事務局)
  - ・ 活動方針 【資料 8-6-1】
  - ・ 予算(案) 【資料 8-6-2】
- 8．J-DESC 法人化準備状況について(鈴木部会長，事務局)
- 9．高知大・海洋コア総合研究センター共同利用委員の推薦について  
(鈴木部会長，阿波根部会長補佐)

## 10 . 報告事項

- ・ SPC 会議報告(山本部員) 【資料 8-7】
- ・ 乗船研究関連(阿波根部会長補佐, 事務局) 【資料 8-8】
- ・ 大学&博物館キャンペーンの協力者への「サンクスレター」案(事務局) 【資料 8-9】
- ・ J-DESC ホームページ(HP)の整備について 【資料 8-10】
- ・ J-DESC ニュースレターについて(事務局) 【資料 8-11】
- ・ J-DESC 新パンフレットについて 【資料 8-12】

## 議事内容

### 1 . 第 7 回 IODP 部会・執行部会議事録[資料 8-1]

第 7 回 IODP 部会・執行部会議事録(承認済)を確認し、修正等のコメントがあれば今週中に事務局に申し出る。

### 2 . 国際 SAS パネルローテーション[資料 8-2]

- ・ SPPOC 木村委員が退任されることが報告された。(後任は BOG が選出するので、執行部の直接対応はない。)
- ・ SPC 川幡委員が退任されるので、候補者を選出する。
- ・ SSEP, SSP 委員大量退任の対処について  
2006 年 5 月開催の SSEP 会議において、パネル委員の大量交代が考えられるため、IODP-MI より対応を依頼された。それを受けて、阿波根部会長補佐が SSEP 委員および専門部会委員に任期延長の協力を打診をしたところ、数名の委員が任期延長を承諾され、大量退任の危惧を回避した旨、報告された。  
また、SSP 委員については、矢口氏が次回より副議長に選出される予定、その後議長になることで承認された旨、報告された。

### 3 . IODP 成果報告会について

第 1 回目は変則的でも良いので開催することに意義がある。

2006 年 5 月 18 日まで、地球惑星合同学会が開催されるため、様々な専門分野の方に参加して頂けるとのことで、2006 年 5 月 19 日(金)に東京大学海洋研究所講堂で開催され、合わせて次年度以降は東大海洋研の共同利用シンポジウムとしての開催検討について報告された。

また、J-DESC として、上記の成果報告会とは別に市民向けにシンポジウムのものを開催してもいいのでは?との提案がなされた。これについては引き続き、執行部で検討することとした。

報告会の広報の方法及び発表される研究内容については、IODP のルールを考慮に入れて検討されるべきであること、報告会の報告書を Extended abstract のような形で残すことについて検討されるべきであると提案がなされた。

そして、IODP-MI 札幌オフィスの参加の仕方についても検討されるべき、とされた。

なお、成果報告会については、石橋部員（九州大学）が指揮をとられる。

#### 4 . J-DESC 総会[資料 8-3]

2006 年 4 月 9 日（日）14：00～17：00 に東京大学海洋研究所講堂で開催されることが確認された。

議長については、東北大学の井龍康文氏にお願いした。

また、総会の開催時期について、今後は合同学会と同時期に開催するのはどうか、との提案が示されたが、合同学会前後や会期中には様々な会議が開催される場合が多いことから、かえって会員が参加困難になる可能性があり、引き続き検討していくことになった。

#### 5 . 新専門部会[科学推進専門部会；仮称]について[資料 8-4]

SSEP の組織が変わったことから、来年度は地球内部、地球環境、地下圏微生物の 3 専門部会を 1 つに編成し、新専門部会として、活動していく。

新専門部会名称については、『科学推進専門部会』で承認された。

科学推進専門部会は地球内部、地球環境、地下圏微生物の 3 分科会から構成される。

3 分科会の委員案が示され、地下圏微生物分科会については、新しく SSEP 委員に加わる、竹内氏(産業技術総合研究所)を分科会に加えた方がいいのでは、と提案がなされた。

#### 6 . J-DESC 予算執行状況について[資料 8-5]

事務局より、平成 17 年度予算執行状況と今年度予定執行額の説明があった。

#### 7 . 平成 18 年度活動方針と予算(案)について[資料 8-6-1 , 8-6-2]

J-DESC IODP 部会の活動方針と予算(案)について、資料 8-6-1,8-6-2 に基づき、説明がされ、国際対応に関して 3 月の IODP Management Forum に鈴木部会長が参加することなどが確認された。今年度との主要な相違点は以下のようである。

予算案；IODP 国際ワークショップ参加支援費を会員提案型活動経費と合わせて、計上。

PMO 会議参加旅費は、鈴木部会長と阿波根部会長補佐の旅費を計上。

PMO 会議参加については、MEXT の支援の可能性大である。

また、来年度から新たに J-DESC AESTO に臨時雇用賃金が計上される。

#### 8 . J-DESC 法人化準備状況について

鈴木部会長から、法人化の準備状況について説明がなされた。

財政基盤の確立のためには、法人化することが必要であるとの方向性が示された。

総会では、法人化に向けて手続きを進める提案をすることを検討していたが、IODP 部会としては、時期尚早であるとの結論が出された。

今年度、法人化に向けて、どのような活動が行われてきたのか、現状報告にとどめることが望ましいとされた。

#### 9 . 高知大・海洋コア総合研究センター共同利用委員の推薦について

共同利用委員をされている、川幡委員が退任されるので、後任候補を検討した。  
専門領域を考慮した結果、池原研氏(産業技術総合研究所)が推薦された。

この件に関しては、鈴木部会長から直接、コンタクトを取ることにし、池原氏に了承を得られなかった場合の委員選出については、部会長に一任することと承認された。

## 10. 報告事項

### ・SPC 会議報告[資料 8-7]

資料 8-7 に基づき、山本委員から SPC 会議の報告がなされた。

SSEP 委員の多田氏が共同議長に承認された。

日本が関わる提案として、Nan Tro SEIZE Observatories , Asia Monsoon が第 1 グループ(全体で 6 提案)に挙げられていることが報告された。

### ・乗船研究関連[資料 8-8]

資料 8-8 に基づき、#313 New Jersey Margin Expedition の応募状況について、報告がされた。

現在、日本からは 4 名、韓国から 2 名がエントリーしている。

しかし、日程が流動的であることから、変更になる可能性がある。

また、応募者の専門分野が堆積学に集中していることから、何人かは参加できない人もいるかもしれない旨、報告がされた。なお、韓国からの応募者に関しては、間もなく正式に韓国が IODP に参加する見込みであるが、J-DESC のアジア参加支援枠による乗船も従来通り継続することが確認された。

### ・大学&博物館キャンペーンの協力者への「サンクスレター」について[資料 8-9]

サンクスレター案が示され、コメントがある場合は事務局に申し出る。

### ・J-DESC HP について[資料 8-10]

資料 8-10 に基づき、HP 作成 / 維持費用、トップページ / 下位ページのフォーマット案について、説明された。

フォーマット案については、コメントがある場合は事務局に申し出る。

### ・J-DESC News Letter について[資料 8-11]

News Letter の目次(案)とレイアウト案への、コメントがある場合は申し出る。

### ・J-DESC 新パンフレットについて[資料 8-12]

コメントがある場合は事務局に申し出る。

その他

JAMSTEC から AESTO への業務委託について

JAMSTEC の鷲尾経営企画室国際課長より、JAMSTEC から AESTO への業務委託元が CDEX から経営企画室国際課に変更となる旨、報告された。

平成 17 年度と大きく違う点は、ミッション型プロポーザル提案について新たに支援を行うことである。

その具体的な支援として、年間予算約 1 千万程度を計上し、国際競争力のあるプロポーザル育成を行い、公募によりテーマを募集する。

また、今年度 CDEX が行っていた乗船研究費の支援も一括して事務局から行うが、来年度は IODP 航海が少ない為、サンプリングパーティー、ポストクルーズミーティングなどに関する支援が大きいと考えられる。

。

MEXT からのオブザーバーについて

日米間の覚え書の件で MEXT から NSF に木村リエゾンと交代で大島氏が派遣されることとなる。

これからは IODP パネル会合にも参加して頂く。

次回開催日について

J-DESC 総会の直前に東大海洋研究所で 12 : 00 ~ 開催予定。